

れているのだろうか？
作業員の六割以上が福島
県民であり、事故で仕事
を失った人々も多く含ま
れています。危険手当の
ピンハネなど劣悪な作業
員達の待遇。除染作業員
たちも、被ばくしながら
の厳しい労働を、防護策
も与えられないままに、
低賃金で強いられています。
最近、除染作業員の中
に十六歳の少年がいた
ことが分かりました。除
染の効果には期待がもて
ないのが実情です。

度の結果が公表され、約
三万八千人の内、悪性診
断された人が十人、三名
がガンと確定。福島県立
医大副学長となった山下
俊一氏は原発事故との関
連がないと簡単に結論づ
けています。まだわから
ないというのが実情では
ないのか。子ども達の健
康被害が本当に心配です。
昨年できた「子ども被
災者支援法」は大変重要
な法律ですが、中身は全
く決まらず、予算すらつ
いていません。一日も早
くこの法律が本当の被害
者救済として機能するこ
とを望んでいます。

草など農林関係の廃棄物
の焼却実験炉や除染の伐
採林を使った木質バイオ
マス発電所がつくられよ
うとしています。焼却す
ることの安全性は？ 線
量が低く、奇跡的に残っ
ている比較的安全な地に、
このような施設をつくる
ことに大変疑問を感じて
います。
昨年十二月には、郡山
市において、IAEAと
日本政府の共催で加盟百
力国以上が参加する国際
閣僚会議が行われました。
被災地福島が安全である
と宣言され、原子力産業
の巻き返しを露骨に主張
していく国際会議です。

常駐すると言われていま
す。チエルノブイリ原発
事故の後にWHOと協定
を結んで、健康被害を外
に出さない、研究をさせ
ないというのをしてきた
IAEAが福島に来ること
にとっても危機感を感じ
ています。
一番の問題は、意図的
にあるいは無意識で行わ
れる人々の分断です。賠
償範囲の線引き、新たな
る放射能安全神話の流布、
強引な工作の数々の中で、
人々はさらに引き裂かれ、
抱える問題は複雑化し、
私たちの怒りと悲しみが
消えることはありません。
しかし私たちはこの二
年間、ただ、怒りに身を

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう！